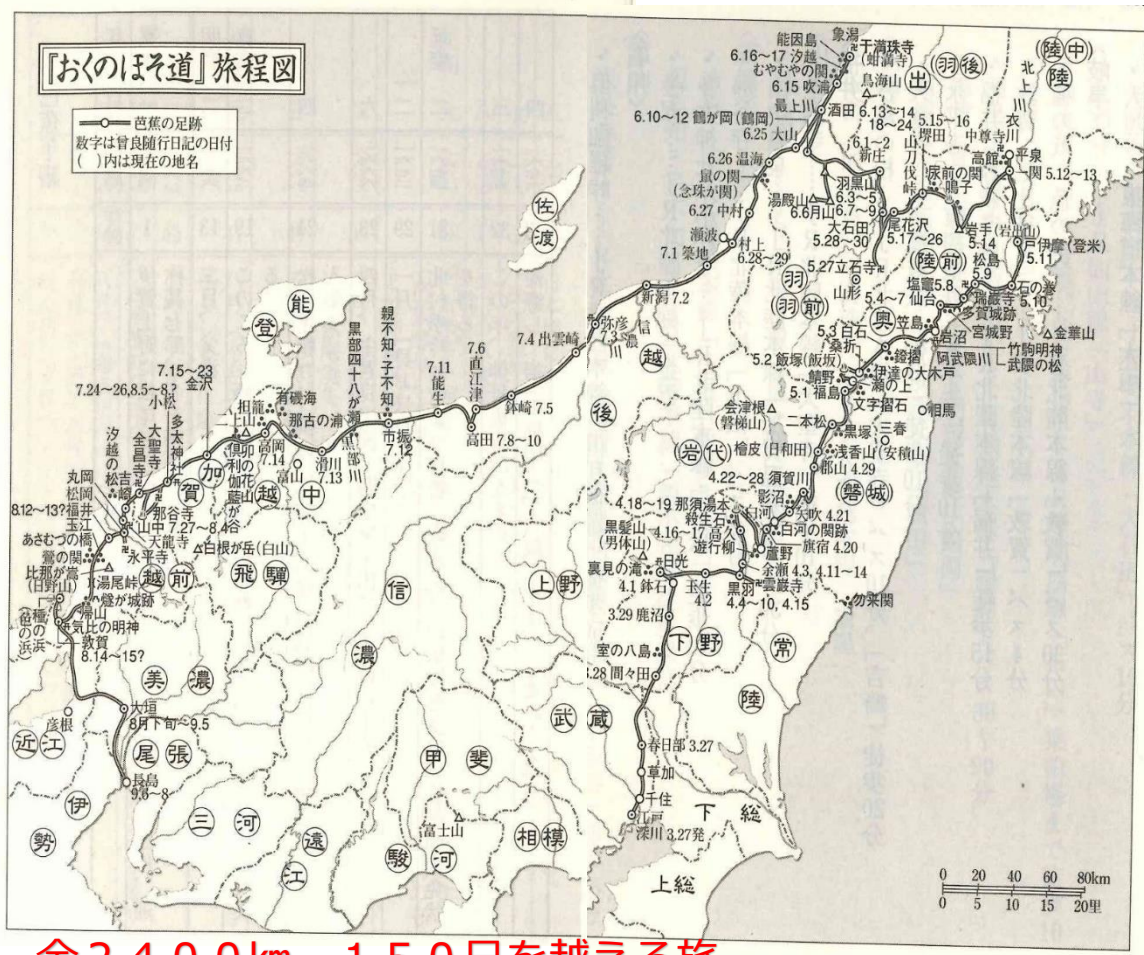


おくのほそ道の終着地・岐阜を想う

『夏草』「おくのほそ道」から

資料②



全2400km 150日を越える旅

芭蕉のあこがれの古人

・芭蕉は、李白や杜甫の漢詩を愛読し、数多く引用している。

【李白】



中国の盛唐の時代の詩人である。字は太白(たいはく)。号は青蓮居士。唐代のみならず中国詩歌史上において、同時代の杜甫とともに最高の存在とされる。奔放で変幻自在な詩風から、後世『詩仙』と称される。

◎李白の文章

それ天地は万物の逆旅(宿とする所)にして、光陰は百代の过客なり。

↓天地はこの世のすべての物が旅の宿とする所で、月日は永遠の旅人である。(人生は短いので、漢詩を作り楽しもうと述べている。)

「おくのほそ道(冒頭)」

月日は百代の过客にして行き交ふ年もまた旅人なり。

【杜甫】



◎杜甫の詩「春望」

国破れて山河在り 城春にして草木深し

「おくのほそ道(平泉)」

「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と笠打ち敷きて…

中国盛唐の詩人。字は子美。号は少陵野老、別号は杜陵野老、または杜陵布衣。「杜少陵」「杜工部」とも呼ばれる。律詩の表現を大成させた。幼少の頃から詩文の才能があり、李白と並ぶ中国文学史上最高の詩人として、李白の「詩仙」に対して、「詩聖」と呼ばれている。また晩唐期の詩人・杜牧の「小杜」に対し「老杜」と呼ばれることもある。